SSH
Since 2010
Super Science Highschool

飯山北 SSH Tribune

―さあ、Scienceの 帆を上げよう！！―

第15号
発　行
飯山北高等学校
ＳＳＨ委員会
2014年 1月15日

―さぁ、Science の帆を上げよう！！―は、全校生徒に募集しその中から選ばれたＳＳＨのキャッチコピーです。
本校校歌にある「徳の帆を上げ知恵の舵」に由来するものです。

特集：SSH　わくわくサイエンス広場

11 月 16 日(土) 午後、SSH フェスティバル「わくわくサイエンス広場」が本校で開催されました。

このイベントは、本校探究科２年生と自然科学部有志が、地域の小学生や中学生を対象に、理科各分野の「わくわく実験」を実施して、小中学生の理科に対する興味関心を呼び起こすことをねらいとして始められ、本年度で３回目を迎えました。今回は、新校舎に移転してから初めての開催ということで、校舎案内も兼ねました。

まず、開会セレモニーが自由活動コーナーで行われ、出品された小学生の夏休み工作・自由研究を表彰しました。引き続き、自然科学部によるガスコンロを使った実験がその場で行われましたが、突然現れた大きな炎に、会場からはどよめきが起こっていました。

その後、探究科１学年の生徒が来場者を校舎へと案内しました。今年度は実験会場が理科の４教室に設けられました。各会場では、ホルダーづくりや空き缶つぶし、熱気球、凧づくりなど、創意工夫を凝らした実験が準備され、小中学生たちも目を輝かせながら各教室を回っていました。

化学教室では、鉄玉をつくる実験の実演が行われ、まぶしい光は圧巻でした。また、火炎放射器のコーナーや、風船と石膏による恐竜の卵づくりコーナーなどもあり、小中学生たちが熱心にチャレンジしていました。

実験だけでなく、本校マスコットキャラクター、キタロー・キタコ・デビローも校内に登場して、にぎやかなひとときを過ごすことができました。

（理科・化学　駒津憲雄先生記）

▲開会セレモニーでの実験

▲恐竜の卵づくりに挑戦する小学生

～　探究科課題研究のための学習交流会　～

飯山北高校の同窓会である桂蔭会が教育支援活動としてとりくんでいるローレル文化講座(「ふるさとの“意思ある学び”」)のプロジェクトチームスタッフが、探究科１年生のために、ローレル版課題研究ガイダンス(学習交流会)を 12 月 19 日(木)午後実施しました。

今回のガイダンスのキーワードは、やはりあの「女子力」。ゲストスピーカーとして、地元に移住された坂下可南子さん、桑原悠さん、内田悠香さんをお迎えしました。

地域を拓くチカラとしても注目されている「女子力」を通じて、地域活性化(まちづくり)の最前線のとりくみを学ぶとともに、地域が直面する課題に眼を向けたテーマを設定して課題研究にとりくむことの大切さを考えました。

ローレル文化講座(「ふるさとの“意思ある学び”」)のプロジェクトチームスタッフやゲストスピーカーの方々からも、テーマ設定に関する具体的提案もいただきました。１年間という長い時間をかけてとりくむ課題研究です。それにふさわしいテーマ設定ができるよう、この機会をとらえて頑張りましょう！（理科・化学　大熊文久先生記）

講演会の様子（上）

ゲストスピーカーとしてお招きした坂下さん(右)と桑原さん(左)

課題研究の現況について

２年探究科では 80 名が 25 グループに分かれて課題研究を行っています。飯山北高校理数科の伝統に則って、テーマは理科や数学のみならず、全教科にまたがり多岐にわたっています。３年次の探究発展を先取りし、他校生との研究交流会に出向いているグループもいくつかあります。「野沢温泉における温泉沈殿物防止方法の研究」グループ４名は、11 月３日(日）に岐阜県瑞浪市で行われた東海地区高等学校化学研究発表交流会に参加し、優秀賞（３校授与）に選ばれました。また、家庭科の課題研究である「オリゴ糖を用いたジャム作り」は、12 月 22 日（日）に信州大学理学部で行われた課題研究合同研修会で発表を行い、信大の先生方から有益なアドバイスをいただきました。

尚、校内発表会は３月 18 日（火）に本校で実施されます。多くの皆様にご来場いただきたいと存じます。（理科・地学　黒岩寛明先生記）

ＳGH・泉北高校報告（英語科　小出一也先生・国語科　長良聖子先生記）

平成 25 年 12 月 10 日（火）に立命館大学びわこ・くさつキャンパスに訪問し、2008 年から始まった生命科学部鈴木佑治教授「プロジェクト発信型英語プログラム」の授業を視察した。今回視察した授業は、ターム・ペーパーのアブストラクトの書き方を学び、英語で書いて発表するというものと、各自設定したテーマのポスター発表。このプログラムは英語を使う場を作ることを重視し、英語を使いながら覚えるためのもので、プログラム開始後、TOEIC-IP 全員受験の結果、35 点~50 点ほど得点が上昇しているという。真にグローバルな人材を育てるには、「オリジナルであること」が大切であるという教授のお話が印象的だった。またこのプログラムの前段階として高等学校における言語教育の必要性を強く感じた。

11 日（水）には大阪府立泉北高等学校を訪問した。同校は国際文化科・総合科学科を併設し、国際文化科においては大阪府の「使える英語プロジェクト授業」（English Frontier High Schools）認定、総合科学科においては SSH（２期目）および「科学技術人材育成校」（全国 25 校）認定という人文・理系両面において力を入れており、本校の探究科を含め今後のあり方を模索する上での参考となる学校である。面会者は、桑原学校長、山本教頭、藤原首席（英語科）、和田教諭（理科・SSH 研究主任）であった。ヒアリング事項は、下記の通りである。

１）同校の概要
２）同校の教育活動
- (ア)　GET（水曜日６時限目、希望者対象の TOEFL ITP テストスコアのためのリーディング力と文法力の向上）
- (イ)　土曜特設クラス Zutto GET（１年生）　/ Motto GET（２年生）
- (ウ)　CALL 教室の活用
- (エ)　模擬国連（校内でも国際文化科生徒によるミニ模擬国連を実施）
- (オ)　イングリッシュキャンプ（３月中旬１泊２日、語学演習・インターナショナルスクールとの交流）
- (カ)　海外語学研修（７月下旬~約２週間、オーストラリア・ニュージーランド・ハワイの３コース）
- (コ)　海外研修（10 月下旬３泊４日、シンガポール・マレーシア）

３）総合科学科の様子
- (ア)　GET・科学探究基礎・科学英語基礎（火曜日６時限目、希望者対象の英語による理科実験授業）
- (イ)　SSH 海外研修

大阪府内の高校において同校は第２グループに位置しているが、その中でも国際教育・SSH を軸に独自のカラーを出し、大変意欲的に活動している。英語を中心とした語学・国際教育においては、「使う英語」「国際的人材育成」を目的に徹底した演習を学校で行い、それを実際に使ってみる場（海外研修･海外語学研修･SSH 海外研修等）を整えている。また大阪府の English Frontier High Schools、文科省の SSH・科学技術人材育成校など、外部の制度を利用した教育予算獲得にも非常に積極的に取り組んでいる姿が印象的だった。

（写真左：グループ討議　右：ポスター発表）

ご意見・ご要望はこちらへ
〒389-2253 長野県飯山市大字飯山 2610 番地
TEL 0269(62)4175　　FAX 0269(81)1072
URL http://www.nagano-c.ed.jp/iikita/
E-mail iikita@nagano-c.ed.jp